

薬学教育モデル・コアカリキュラムとの対応表

本書は「薬学教育モデル・コアカリキュラム」の下記の到達目標（SBO）に対応した構成となっております。本書での各到達目標の番号（# 00 で表示）と、関連する項目ページを示しますのでご参照ください。

E 医療薬学 E1 薬の作用と体の変化 (4) 医薬品の安全性

一般目標：医療における医薬品のリスクを回避できるようになるために、有害事象（副作用、相互作用）、被害、薬物乱用に関する基本的事を修得する

本書での番号	到達目標	関連ページ
# 01	1. 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる	47
# 02	2. 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる	47
# 03	3. 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる 血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー（ショックを含む）、代謝障害	47, 59
# 04	4. 代表的被害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する（態度）	64, 78

E 医療薬学 E3 薬物治療に役立つ情報 (3) 個別化医療

一般目標：薬物治療の個別化に関する基本的事項を修得する

本書での番号	カテゴリー	到達目標	関連ページ
# 05	【①遺伝的素因】	1. 薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる	14
# 06		2. 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因（薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異など）について、例を挙げて説明できる	14
# 07		3. 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる	14
# 08	【②年齢的要因】	1. 低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる	81
# 09		2. 高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる	32, 123, 137
# 10	【③臓器機能低下】	1. 腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる	103
# 11		2. 肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる	92, 114
# 12		3. 心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる	98
# 13	【④その他の要因】	1. 薬物の効果に影響する生理的要因（性差、閉経、日内変動など）を列挙できる	38, 71
# 14		2. 妊娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる	71
# 15		3. 栄養状態の異なる患者（肥満、低アルブミン血症、腹水など）における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる	176
# 16	【⑤個別化医療の計画・立案】	1. 個別の患者情報（遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能など）と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる（技能）	23, 52, 73, 85, 87, 117, 128, 156
# 17		2. コンパニオン診断にもとづく薬物治療について、例を挙げて説明できる	168